

よみさんぼ

大宮見沼



第7号

写真家 野口勝宏

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特 **き**っと **かならず** **はな**は咲く
集 やどかりの里コンサート開催！

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぼ」編集委員会

特集 **き**っと **かな**らず **は**なは咲く

やどかりの里コンサート開催!



11月29日(金), 埼玉会館大ホールにて, やどかりの里コンサート2013「**き**っと **かな**らず **は**なは咲く」を開催します。(p14のご案内もご覧ください!) 今回のコンサートは, 写真家・大西暢夫さんのトークショー, チェコ少女合唱団「イトロ」ツアー・フォー・ピース2013 さいたま公演の2部構成です。今回の特集を通じて, 皆さんにやどかりの里コンサートの素晴らしさを知っていただければと思います。

カメラマンとしてできること

第1部で登場する大西暢夫さんとやどかりの里との出会いは偶然でした。やどかりの里の職員と大西さんが, 友人として家族ぐるみのお付き合いをしていたのです。精神障害のある人たちの地域生活を支える活動を続けてきたやどかりの里と, 長年精神科病棟で患者さんの写真を撮り続けていた大西さん。これも何かのご縁だったのかもしれませんが。

大西さんのライフワークともいえる活動の1つは, 日本中のダムに沈んでいく村々を撮影すること。代表作「おばあちゃんは木になった」(大西暢夫, ポプラ社, 2002) はダムに沈んだ村・岐阜県徳山村のユーモアあふれるおじいさん, おばあさんたちの写真絵本です。大西さんが撮影・監督した作品, 映画「水に

なった村」も徳山村が舞台です。映画を観ると、大西さんとおじいさん、おばあさんとの掛け合いに、長い年月を通して培ったつながりが垣間見え、心温まる思いがしました。その一方で、ずっと暮らしてきた土地を離れなければならない淋しさ、悔しさが伝わってきて、思わず涙が出ました。

2011(平成23)年3月11日、東日本大震災の後、大西さんはすぐ現地に向かいました。以来今まで、津波の爪痕が色濃く残る被災地に足繁く通い、そこで暮らす人々との関係を築きながら、カメラを通して、記録を残しています。2011年5月から2か月に渡り、岐阜新聞で掲載された大西さんの連載記事は、1冊の本にまとめられました。その「東北沿岸600キロ震災報告」の中で、その時の思いをこう述べています。

「僕はカメラマンとしての役割を考え、今の行動を選択した。岐阜から出発し、岐阜で発信することに意義を感じていた。(中略)現場に行けば涙を流す現実しかない。見た現実を伝えていきたいが、何もかもが巨大で語り尽くすことなど到底できない。その悔しさやもどかしさが常にしこりとして残った。でも僕は遠くに暮らす人に、少しでも知ってもらいたかった。それはメディアに関わるカメラマンとしての仕事だと思った」(上掲, p46)

カメラマンとして何ができるか……その思いが、大西さんの活動につながっています。岐阜では定期的に報告会を開催し、各地での講演活動を通して、多くの人に被災地のこと、そこで暮らす人のことを伝えているのです。

やどかりの里コンサートの第1部、大西さんのトークショーのタイトルは、「津波の夜に～3.11の記憶」。今年2月に出版された、大西さんの著作(小学館、2013)と同じタイトルです。この本は、東松島市の被災者35人の震災の記録であり、仮設住宅を拠点にした丁寧な取材によるフォトドキュメンタリーです。コンサート当日は、被災地の状況やそこで暮らす人の姿、明日への希望を語っていただきます。当日は、大西さんの出版物も販売します。岐阜新聞での連載をまとめた「東北沿岸600キロ震災報告」、「3.11



の証言 心に留める東日本大震災 震災報告Ⅱ」(各 300 円)は、経費を除いた売上が被災地へ寄付されます。ぜひ会場でお買い求めください。

少女たちが響かせるプロの歌声

第 2 部は、チェコ少女合唱団「イトロ」ツアー・フォー・ピース 2013 です。チェコ少女合唱団「イトロ」のコンサートは、2007 (平成 19) 年、2010 (平成 22) 年に続いて 3 回目となります。「イトロ」は「朝焼け」という意味で、ボヘミアの古都フラデツ・クラークヴェーを本拠地として活動しています。その活動のテーマとなっているのは「平和の尊さ」「いのち」。

「イトロ」には 4 つの予備課程があり、約 500 名が所属しています。寄宿舎で生活しながら、歌を学んでいます。今回来日するのは、その中で選抜された 30 名。その歌声とステージに臨む姿勢は、さすがプロ！少女たちの楽屋での素顔は、日本人の少女たちと変わらない、10 代の可愛らしい女の子たちですが、一歩ステージに上がれば、音楽性と芸術性を発揮して、私たちの心を驚掴みにします。「イトロ」は 1973 (昭和 48) 年の創立以来、国際合唱大会で 17 回もの優勝を飾っています。

今回 3 回目となる「イトロ」のさいたま公演ですが、毎回「感動した」「多くの子どもたちに聞いて欲しい」「少女たちの澄み切った歌声に、心が洗われるようだった」とご感想をいただいています。

中でも、広島で被爆した真実井房子さんの体験記が詞となった「虹よ永遠に」(見沼区在住の中村雪武氏作曲の大作)、皆さんもよくご存知の「ふるさと」など日本語で歌い上げる曲は、たいへん好評です。「虹よ永遠に」は、30 分にもわたる大作で、すべて少女たちが日本語で歌います。被爆直後、広島の荒野を彷徨い歩く人たちが、そのいのちを失っていく悲劇が描かれているのです。少女たちの表現力からは、「音楽を通じて愛と平和のメッセージを届ける」という、指揮者イジー・スコパル氏の教授理念が伝わってきます。さらに、今回は、ドヴォルザークなどの名曲の数々に加え、クリスマスソングも予定されています。

「その日に予定がなければ、公演にぜひ行こう。その日に予定があれば、キャンセルしてでも公演に行こう。決してお見逃しなきよう」(アメリカ・ハリソン・デイリータイム紙の見出し、株式会社テンポプリモ HP より。株式会社テ

ンポプリモは、イトロの講演をマネジメントしている会社です) ……ぜひ皆さんも「お見逃しなく」!

長い歴史をもつやどかりの里コンサート

やどかりの里が活動を開始したのは、1970(昭和45)年。精神障害のある人への支援は、「福祉」としては認められていませんでした。病院の中で精神障害のある人が置かれている状況を目の当たりにした病院のソーシャルワーカーが立ち上げたのが、やどかりの里でした。

当時は、精神障害者への支援は福祉事業として認められていなかったのも、財政的な支援もありませんでした。必要な活動を継続すること、そのためにまずできることを考え、取り組む……それが、やどかりの里です。資金確保のための活動の1つが、コンサートでした。今でこそ、福祉事業として認められるようになりましたが、財政基盤の脆弱さは今も変わりません。なぜなら、必要な活動が出てくれば、制度の枠組みを越えて取り組むからです。

今回は、東日本大震災後初のコンサートということで、「きっと かならず はなは咲く」をテーマに企画しています。被災地やそこで暮らす人の姿を追い続ける大西さん、被災地への思いを込めイトロが歌ういのちの尊さ、そして、来場して下さった皆さんといっしょに歌う震災復興支援ソング「花は咲く」を通して、震災を他人事にせず、私たち1人1人のこととして、今こそ求められている「つながり」について感じてみませんか?

コンサートの収益は、障害のある人の働く場づくりを創設しようと挑戦する農業の取り組みのための資金の一助にする予定です。

やどかりの里コンサートを楽しんでいただき、同時にやどかりの里の活動、障害のある人の働きたいという希望を実現するために力を貸してください。ぜひ、お近くのやどかりの里の各事業所にお声かけください!コンサート事務局(やどかり情報館:048-680-1891 9:00~18:00日祝祭日を除く)でも皆さんからのご連絡をお待ちしています。

やどかりの里は、常に全力投球!当日の運営スタッフもやどかりの里が行っています。そんな目線でもやどかりの里を感じてください。コンサート当日、埼玉会館で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。(記 宗野 文)

やどかりの里の仲間たち・6

やどかりの里コンサートで、「イトロ」の少女たちと合唱を披露するやどかりの里コーラス隊。今回は、コーラス隊の2人の声をお届けします。

楽しい気持ちを歌に乗せて

佐合真由美さん (25歳)

さいたま市大宮区天沼にある喫茶ルポーズで働いて今年で3年になります。最初は右も左もわからず、掃除ばかりしていたので、ウエイトレスなんてできないんじゃないかと不安でした。けれど今では、カウンターやホールでの接客業から、野菜カットなども任されています。自分で作った飲み物を、お客さんに「美味しかった」と言ってもらえると、とてもやりがいを感じます。もともと歌うことが好きだったので、コーラス活動にも参加するようになりました。14歳の時に統合失調症と診断されてから、辛いこともありました。でも「昔は辛かったけど今は楽しい！」そんな思いを歌に乗せて、伝えたいと思います。

今後の目標は、ミスなく仕事をすること。それからいろんな勉強をして、もっともっと自分に自信をもてるようになりたいです。

やどかりの里はもう1つの薬

平泉 将人さん (51歳)

私は高校生の頃に病気を発症しました。デイケアや作業所を利用して治療をし、1993(平成5)年からやどかりの里に通うことになりました。そこでは爽風会というグループ活動に参加しました。途中体調を崩し、しばらく家で療養したり、近所の作業所に通ったりもしました。でもこの病気は、家にいて薬を飲んでいても治らない、もっと社会的な活動をすべきだと思って、5年前からやどかりの里に戻り、料理教室やコーラス活動に参加しています。コーラスを通して仲間ができ、イベントのたびに連帯感も深まってきました。イトロコンサートも、みんなで力を合わせれば成功するんじゃないでしょうか。

私にとってやどかりの里は、もう1つの薬です。やどかりの里があるから、だんだん病気がよくなっています。そして今の私にとって、心身ともに健康になることが目標です。

見沼たんぼ体験農園事業体験記

見沼の自然を満喫！はじめての稲刈り！！

田植えから125日後の9月29日(日)、待ちに待った収穫、稲刈りをしました。田んぼでは、数え切れないほどのイナゴや赤とんぼが出迎えてくれました。畦道を一步踏み出すと、何匹ものイナゴが飛んでいきます。ショウリヨウバッタやおんぶバッタ、コオロギも……子どもたちは、虫が飛び跳ねるたびに捕まえたくて大騒ぎ。

今年の稲は生育が良く、背丈がぐんぐんと伸びていました。ところが、9月半ばの台風で、多くの稲が倒伏。それでも、田んぼ一面に黄金色の稲穂が広がっているのを見て、心が踊りました。稲刈りを前に鎌が配られ、さあ、いよいよ稲刈りです！

田んぼに入り、倒れた稲を根元からしっかり立ち上げ、1株刈ってみました。3株刈ったら、麻紐で束ね、畦道に並べていきます。子どもの小さな手には、1株刈るのが精一杯……かと思いきや、刈り取りを繰り返すうちにみるみる上達。1株刈ったらうまく持ち替え、次の1株を刈り、またまた持ち直してそのまま3株目を刈り取り……麻紐での結束が、間に合わなくなるほどのスピードでした。稲刈りが進むと、田んぼに機械が入り、畦道に積まれた稲を脱穀。たくさんの米袋が積みられ、達成感・満足感もひとしお。最後に落穂を拾い終了。怪我もなく、皆で田んぼをきれいに刈り取りました！

この半年弱、米づくり体験を通して、見沼の自然を満喫し、そこで生きるたくさんの生き物に触れました。子どもたちだけでなく、私にとっても貴重な機会でした。

ぜひ、皆さんも泥にまみれ、自然に親しんでみてください！ (記 宗野 文)



あの街 この街 俊一郎が行く・1

「モノ」から「コト」へ

仕事の流儀

こんにちは！昨年（2012年）竣工したエンジュ（高齢者向けの弁当をつくり配達する、障害のある人たちが働くやどかりの里の事業所）などの設計を行った建築士で、名を俊一郎と申します。常々建物を設計するときは、そこで繰り広げられる日常を妄想しつつ建物を設計しています。わたしの平和な妄想の中では、その日常は演劇のようであり、建物はその演者たちの目的を受け止め、演出する舞台装置のようなものかなという思いで設計をしています。と言いつつも、そのような情緒的な話だけでは建物は出来ません。

エンジュという舞台装置

エンジュの多目的室を見てみましょう。なぜか高いところと低いところに同じような窓が並んでいる一方で、四角い開け閉めできない窓が2か所あります。



それは新奇さを狙った遊びなのか？もちろん、それは否定しませんが、それぞれ理由があります。一般的に建物内や部屋内の気温は、上が高く下が低くなっています。それに応じて、窓を設けることで空気の対流を生み自然な換気を促進します。また、四角い窓は、開け閉めが出来ない代わりに、絵画の額縁のように窓の外の風景を切り取りつつ、この公共性のある建物の内側と外側を印象的につなげることを目的にしています。一方で、遮光を目的として各窓に配置している木製の建具はそれを閉じたり開いたりすることで、部屋の印象を変えたり、掲示板として使用することができます。遊んでいるよ



とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。



うですが、機能を満たしつつ様々な場面転換に対応する舞台装置になるのです。

モノ+コトでカタチを成す

当初、エンジュの設計に際して、福祉施設のあるべき姿を勉強し、計画しようと意気込んでいました。しかし、人それぞれに個性があるのと同様、やどかりの里での日々を通して知ったのは、型通りの障害者は1人もいないということでした。

やどかりの里では、局所的にはその1人1人の個性を見抜き、適した役割や時間配分を考え、大局的には社会の中での役割探しや事業の新規開拓を考え続けています。いずれもそれは、内へ外へと横断的に展開されるコミュニケーションの模索です。それに呼応するべく舞台装置としての建物であるエンジュを設計しましたが、それだけでは、「モノ」準備で終わってしまいます。通常はそれでも十分に業務を果たしたことになりますが、それだけではおなかが満たされない印象がありました。そこで次は「コト」を模索していきたいと思いました。

題して「あの街この街 俊一郎が行く」

建物等を含め「モノ」は、永遠ではありません。一方で、コミュニティでの人のつながりや地域イベントなどの「コト」は受け継がれる限り、それがたとえ日常的なささやかなことであってもその存在は永遠です。

この連載はいろいろな機会を通して感じとれる「モノ」と「コト」のつながりを時には雑談もまじえつつ、おさんぽ感覚で綴っていきたいと思います。ゆっくりとお付き合いの程、よろしく願います。

エンジュ外観



(P8~9 写真:新 良太)

あなたの街のやどかりさん

日替わり弁当・まんじゅう「まごころ」

1品1品まごころ込めて

手づくりの日替わり弁当

まごころの日替わり弁当は、毎日平均60食を製造販売しています。手づくりであること、1食15品目以上の食材を使っていること、野菜をたっぷり使っていることが特徴のお弁当で、特に女性に人気があります。現在売れ筋の献立は、揚春巻き、キャベツ入りメンチです。手づくりで手間がかかるため、大量生産できないところが悩みで、時間内でも売切れてしまうこともあります。なるべく国産材料を使う、野菜はしっかり洗う、衛生管理を徹底するなど、お客様に安心して召し上がっていただけるお弁当づくりに励んでいます。

埼玉県産の小麦粉を使ったまんじゅう

まごころのまんじゅうは、埼玉県産の小麦粉をこねて作った生地、丁寧に炊き上げた小豆あんが特徴で、意外と子どもに人気があります。定番のまごころまんじゅう以外にも、季節ごとのおまんじゅうが並びます。初秋にはかぼちゃをホクホクにオーブンで焼き上げた100%かぼちゃあんの「かぼちゃまんじゅう」、晩秋には、小豆あんにさつま芋の甘煮を合わせた「お芋まんじゅう」、春先には、白あんに桜の塩漬を添えた「桜まんじゅう」、甘いものは苦手という方には「高菜まんじゅう」など、楽しんでいただいています。全ての工程が手作業で、携わるメンバーは、まんじゅう職人を目指して製造技術を習得してきます。まんじゅう1つ1つに、いろんな思いがこもっています。

地域の一商店として

地元の商店会に加盟し、地域とのつながりを大切にしています。7月の与野夏祭りでは、店の前の与野本町通りが御輿や夜店、大勢の人でにぎわいます。

第7回

まごころは、さいたま市中央区でお昼の日替わり弁当とまんじゅうを製造販売しているやどかりの里の事業所です。一同心を込めて仕事をしています。お客様に喜んでいただけるのが何よりのやりがいになっています。1993（平成5）年に活動を開始して、11月で丸20年になります。たくさんの方のご支援を頂きながら今日まで歩いてくることができました。ありがとうございます！

まごころも、まんじゅう、揚げたてコロッケ、スーパーボールすくいで祭りを盛り上げます。この辺りではお祭りの日にまんじゅうを食べる習慣があるんです。

まごころの小さなお店に、いろんなお客さんが来てくださるようになりました。ご近所の方はもちろん、車で立ち寄ってくださる方もいます。素朴で美味しい、弁当やまんじゅうが食べたいな……という時に立ち寄っていただける店になりたいです。

働く場として

まごころは、精神障害のある人たちの働く場でもあります。現在20人の仲間が、まごころで働いています。1人1人が、食品の製造や販売に関わる責任を持ち、プロとしての仕事をするべく、日々頑張っています。弁当やまんじゅうの製造販売という仕事は、お客様の反応を直に感じられる仕事です。たくさん弁当の注文があった、ご来店のお客様が多かった、まんじゅうが飛ぶように売れた、まんじゅうを美味しいと言ってもらえたなど、やりがいを感じ、自信を取り戻していく人がたくさんいます。働くことを通じて、回復し成長していける場でもあるのです。

（記 檜山うつぎ）

皆様のご来店心よりお待ちしております。
弁当は月・火・木・金の11時から1食550円にて販売中！
まんじゅうもいっしょに販売しています。
お問合せ まごころ
〒338-0003さいたま市中央区本町東5-9-7
TEL 048-857-2783



自立支援は理解活動から

商店会としてまごころを応援

菅野 勲さん

(上町商店会会長)



今年(2013年)5月、まごころの
 念願が叶い、与野ばらまつりでまん
 じゅうを販売しました。上町商店会
 会長の菅野勲さんの応援があつて実
 現したことです。「まんじゅう出して
 みない?」といつも声をかけてくだ
 さる菅野さんにお話を伺いました。

まごころとの出会い

私がまごころと出会ったのは数年前、自治会の役員として「ふれあい会食」^{注)}を手伝っていた時でした。民生委員さんから、まごころのことを聞いたんです。高齢者向けの献立で作ってくれる弁当屋で、美味しいし、この辺の店だから支えたいと言っていました。その後、まごころが商店会に入会し、いっしょに活動

注) 市社会福祉協議会の事業の1つで、単身高齢者を招いての会食会。さいたま市内各所で実施されている。

するようになりました。とにかく名前を売って、地域の皆さんに知ってもらおうよと、私も働きかけました。

自分のほんとうにやりたいこと

私は、会社を早期退職し、そば屋での修行を経て、57歳でそば屋を開店しました。家族は驚いていましたが、協力してくれて、ほんとうにやりたいことができました。会社員と違って、商売をするには何から何までやらなくてはならないのです。でもそれは、自分の好きなことをする者にとって義務だと思っています。

自立支援は理解活動から

ある日、私の店(現在、休業中)に重度心身障害の方が来店しました。その時は満席で、ゆっくり食べてもらえませんでした。代わりに休日に店を開けて食べに来てもらったり、

近所で豆腐の引き売りをしている「一豆」(鴻沼福祉会が運営する障害のある人が働く豆腐屋)さんと知り合ったり、障害のある人との出会いがありました。

まごころは、障害のある人たちの自立支援を目指している所だと思っています。自立支援は世間の人とも協力しないとできないでしょう。

知人で、腰の曲がったお母さんが大きな子どもの面倒をみえています。家族だけで何とかするのは無理なので、世間の人に理解を広げる活動が必要だと思います。商店会として、できる応援をしたいと考えています。

まごころへのメッセージ

ばらまつりは、天気も良く、最高の条件でまごころにも参加してもらえて良かったです。たくさん売れたようで安心しました。上町商店会の加盟する与野商連の一員として、実績を積んで地元の人たちにも理解してもらえたらいいですね。

まごころはいつも忙しそうですが、もっともっと理解を広げていけば、活動を手伝ってくれる人が増えてくるでしょう。

活気ある街づくりにつなげたい

今年7月にさいたま市の商店会活

性化推進事業補助金を受けて、上町商店会直営のそば店「手打ち蕎麦処『しちふくじん』」という、新しい取り組みを始めました。商店会の空店舗を活用して、地域住民が交流できるコミュニティレストランを目指しています。営業時間は午前11時半～午後3時で、国産そば粉の手打ちそばを召上っていただけます。夕方や日曜には、地域団体に貸し出すことができます。高齢者や子ども連れの母親など地域住民がくつろいで楽しめるような場所、活気ある街づくりにつなげていきたいと考えています。

*「しちふくじん」

さいたま市中央区本町西4-19-15

定休日：(日)(祝) 駐車場：5台

問合せ：電話 048-858-5070

*「しちふくじんそば」



1,500円。天ぷらからデザートまでこだわりの7品。高齢者向けに量が少なめのものも。

*「しちふくじん」横の販売スペースでは、毎週土曜日に鴻沼福祉会の「一豆」が豆腐を販売中。

労働保険・社会保険の手続き、ご相談は
浅沼社会保険労務士事務所

社会保険労務士 **浅沼 智**

〒353-0001 志木市上宗岡 4-26-15
 電話 048-487-6161 FAX 048-487-6168
 E-mail:skiki-asanuma@sand.ocn.ne.jp

OA機器
事務機器

オフィス用品

ソフトウェア のことなら

主な取扱商品

印刷機・複合機・FAX・事務用品・幼稚園ソフト

地域に根付いて36年
 **教育産業株式会社**
<http://www.kyouiikusangyou.co.jp>

さいたま市見沼区南中野301-1 TEL:048-685-0855
 FAX:048-685-0726

公益社団法人やどかりの里コンサート2013

Czech Girls' Choir

チェコ少女合唱団《イトロ》

The tour for Peace 2013

きっとかならずほなほは咲く

Jitro

ふたたび舞い降りるボヘミアの妖精
 神祕の歌声！世界最高の少女合唱団

国際合唱大会で過去17回の優勝！
 ボヘミアより舞い降りる、世界最高の少女合唱団《イトロ》さいたま公演！

「その日に予定がなければ、公演にぜひ行こう。その日に予定があれば、キャンセルしても公演に行こう。決してお見逃しなきよう」

(アメリカ・ハリソン・テイリータイムス紙)



Program

世界のクリスマス&世界の合唱曲集

- ドイツ きよしの夜(ブルーバー) Sell and still (ルポ)
- イギリス クリスマス・キャロル集
- ドヴォルザーク 新世界より(ラロ・コロワ)が母に教えた、1歌
- スメタナ:モルダウ歌劇「売られた花嫁より
- ヴァグナルディ:グロリアニニ長調より(天なる神に栄光あれ)
- 岡野貞一:ふるさと
- 中村雪武:虹よ永遠に〜真実男房子原爆体験記より〜
- 震災復興支援ソング:「花は咲く」ほか



指揮:イジー・スコバル



独唱:望月友美
 (メソソプラノ)



2013.11/29 [金] 17:00開場
埼玉会館 大ホール

[チケット] S席3,500円 A席3,000円(全席指定)

事務局 **Tel. 048-680-1891**

■第1部 17:30開演
 「津波の夜に〜3・11の記憶」大西 輔夫トークショー
 (写真家)

■第2部 18:30開演
 「イトロ」ツアー・フォー・ピース2013 コンサート

特別企画「津波の夜に〜3・11の記憶」大西 輔夫写真展
 2013.11/25(月)12:00〜27(水)16:00 埼玉会館 第2展示室



大西 輔夫

主催:公益社団法人やどかりの里 共催:やどかりの里後援会
 後援:埼玉県、埼玉県教育委員会、(社)埼玉県社会福祉協議会、さいたま市、さいたま市教育委員会、(社)さいたま市社会福祉協議会、埼玉県共和会、日本チェコ友好協会、生活共同会コープら

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために-

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

この道30年の職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

- 鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつつあります。
- 障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフも募集しています！

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL:048-854-6890 FAX:048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

●さいたま障害者労働センター(桶川市)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター采葉 ●地域活動支援センター采葉(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター采人(見沼区)

作者紹介

写真家 野口勝宏さん

東日本大震災後「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と、フェイスブックで連載している。7月には「ここは花の島」(帯文/谷川俊太郎)IBCパブリッシングから作品集が出版された。<http://noguchi.jpn.com/>でも作品の閲覧可能。

表紙：ノブドウ

「野葡萄」。山に行かなくても平地の草むらでも見かけます。日本の他、東アジアに自生しアメリカにも渡って帰化しています。魅力的な色ですが食べられませんが、実の色が緑→白→紫→青に日ごと変わっていくので、毎日の散歩道で自分好みの色合いを観察すると楽しいですよ。磐梯山周辺では年配の方たちがこれを「猫の目」と呼んでいます。皆さんの地域ではどうでしょう。

題字 宗野文さん (1975年生まれ)

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今、我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第7号

発行 2013年10月(秋号)

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

定価 100円

求めています

* 300坪～600坪の農地

やどかりの里では、障害のある人たちとともに担う農業を考えています。見沼区染谷地域を中心に、土地を所有している方で「高齢で農業が難しい」「遊ばせている土地を貸したい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

やどかり情報館

TEL 048-680-1893 (担当 宗野政美)

* お礼

本コーナーでやどかりの里の事業所「あゆみ舎」の移転先の情報を求めましたが、すぐに情報を寄せていただきました。「よみさんぽ」を読んでいただいているんだなあ……と実感し、嬉しく思いました。この場を借りて、お礼申し上げます。